

東京鶴城会便り

発行責任者 西村恭輔

新発見！都内散策

三年ほど前から体重が増え、血圧や尿酸値が高く、糖尿病の疑いがあると医者からの注意を受け、一念発起して、近所を散歩することにしました。

しかし、根気がなく、三日坊主で終わる日々が続いているとき、何気なくテレビを見ていたら、俳優のAさんが、小生の住んでいる浦安を、ガイドしながら楽しそうに散策している番組にヒントを得て、「これだー」と思い、早速、東京都内の公園や街中を散策することにしました。今まで知らなかったことばかりで、色んなことに大変興味が湧いてきました。（「フタタモリ」の心境です！）

それからは、暇さえあれば休日には自宅を出て、皇居の周り、谷中、根津、千駄ヶ谷、浅草、新宿周辺等を散策し、四季に応じて移り変わる風景に魅了され、心が癒されています。



田中 幸資（昭和38年卒）

「熊井高齢3兄弟の北イタリア周遊・西地中海クルーズ紀行」

2011年5月の連休、久しぶりに3兄弟夫婦（兄弟は全て宇土高校卒）が宇土で集い、その際、「せっかく6人元気だけん、地中海クルーズと北イタリアは周遊すっぞ！」と意見がまとまり、同年11月16日～30日の15日間、独自に計画した下記行程で実行しました。そのとき長兄光輝78歳（S26卒）、光春76歳（S28卒）、千代治67歳（S37卒）、各つれあいは相応？の年齢でした。
<<行程>>成田→ミラノ→ベネチア→ジェノヴァ→サボナ（クルーズ乗船→バルセロナ→バルマデマヨルカ→パレルマ・マルタ→パレルモ・シチリア→チビタベッキア・ローマ→サボナ下船）→ミラノ→成田。



兄弟夫婦の集合写真（ミラノ：ドゥオーモ屋上にて）左より千代治、禮（光春夫人）、光春、光輝、芳子（光輝夫人）、雅子（千代治夫人）

お気づきですか、クルーズ船は今年1月13（14）日にチビタベッキア出航後の座礁事故で、数十人の死傷者を出したコスタコンコルディア（総トン数112,000トン、全長290m）。そのほぼ同コース、一つ前のクルーズでした。事故の内容は、ネット情報が詳しいので省きますが、直近で体験しているだけに、事故時の状況がリアルに想像できます。びっくりです。船は基本的にコンピュータ管理（設定）です。よほど人為的に操作しないかぎり、悪くもない天候の中で、このような事は起こりえないはず、人災でしょう。今や有名？スケッチャー船長とも写真を撮り、言葉も交わしました。



コスタコンコルディアのメインレストランで毎日フルコースディナー。今年1月は、この時間帯に座礁したようです。大混乱の状況が目に見えます。

クルーズ船は乗ってしまえば移動ホテルです。楽です。様々な寄港都市・地域を訪問できますし、海（デッキ）からの情景は朝日・夕日、入港時など陸とは異なる素晴らしいものがあります。今回の事故でクルーズに疑問符がつくのは残念ですが、私としては基本的にクルーズはおすすめ（特に高齢者の方）です。今年5月～6月にもバルト海をクルーズする予定です。

私の3回のクルーズ経験でも、車いすの方（当然介添え付き）等、乗客には高齢者の方も多くいらっしゃいます。しかし、船は大きくても悪天候時は揺れます。船に弱い人には、少し厳しいかもしれません。医務室も完備しています。

とにかく高齢、しかし元気な3夫婦、北イタリアの歴史・文化、クルーズ中及び寄港訪問都市での人とのふれあい、風景、ワイン、地元料理を堪能し、あらためて兄弟の絆を確認し、無事日本へ帰着しました。皆強運ですねー！光輝・光春は、未だ準現役・現役、千代治が一番早くリタイアです。

（昭和37年卒 熊井 千代治）



宇土高校の今昔

東京への想い出

母校宇土高校は、今も多くの文化財に囲まれた小西行長城址にたたずんでいます。校内には、県立宇土中学新制が60年振りに設置され、県央の中高一貫校となり、この3月に第一期の卒業生80名78名が宇土高校に入学が誕生しました。その為、高校は50数年ぶりに6クラス（240名）となり、少数精鋭の学校に変わりました。校内には、まだあどけない中学1年生から屈強な高校3年生まで同じ制服で生活しており、ほほえましく感じます。

校舎は鉄筋3階建てで、昔の木造校舎の面影は無く、体育館が2棟、第2グラウンド（野球場）が西岡台の東方に整備され、90周年記念行事で、校舎間の学心の森を在校生の憩いの場として整備しています。また、正門からの桜並木は無くなりましたが、曰くありげの泉お地蔵様が2体祭ってあります。正門横の巨岩が残り、正門前の蓮池跡地に同窓会館（樹徳館）が建設され、宇土高校同窓会の事務局が入室しています。

私は、宇土高校を卒業して47年が過ぎましたが、卒業式を待たず2月下旬に上京し、神田にある便箋、日記帳の製造販売会社に勤務し、夜間の法政大で経済学を1年間学び、新たに夜間の東京理科大学で化学を学びました。この間、転職、転居を繰り返しましたが、埼玉県の中学に赴任校が決まりましたが、望郷の念が強く、母と共に帰郷し、宇土高校を初任に高校の化学の教師として36年間勤務し、定年後は、同窓会事務局を務めております。

この東京での6年間で、同窓の菅野君5組と偶然、東上線の車内で再会したのが、唯一の同窓生との出会いでした。しかも、2人共ハエオイカワ釣りの格好での再会であり、高坂駅近くの都幾川で1日中ハエ釣りし、ご機嫌で別れたのが楽しい思い出です。

皆さん、帰郷の折には、是非、母校にお立ち寄り下さい。正門前の同窓会館にお声を掛けて頂ければ、校内をご案内いたします。

宇土高校同窓会事務局長 永里孝一（高十七回卒）

「房総の釣り」を楽しんでいます！

私は千葉市の東外れに住んでいます。このため外房（房総半島の中部）の海が近く、釣りを楽しんでいます。船釣り、磯釣りではなく、誰でも簡単に楽しめる堤防釣りで。時間、装備、費用を考えてのことです。

ホームグラウンドは御宿港でしたが、南側堤防の先端が立入禁止となったため、最近では勝浦の港での釣りが多くなっています。5、6年前までは、鴨川、白浜、館山など南房総にも時折出かけていましたが、最近では車で90分以内で行ける所に的を絞っています。何が釣れるかですが、御宿以南であれば、5月から10月までの半年間、月2回釣りすれば、初心者でも、鰹、メバルなど20種類から30種類程度の魚を釣ることができます。もちろん、時には坊主ということもありますが、大物（黒鯛、石鯛、鯉等）狙いでない限り、春から晩秋までは、のんびりと構えていても美味しい魚が釣れます。私は鰹をターゲットにすることが多いのですが、鰹狙いで、カンパチやブリの幼魚、大型の鯉が釣れることもあります。

宇土高出身者であれば、宇土半島や天草で釣りをされた方が多いと思います。最大の違いは、外洋に面しているかどうかです。大矢野、天草上島辺りまでは内海ですので、冬期を除くと海は穏やかな日が多いと思いますが、外房は太平洋に面しているため、1年中、どんなに凪いでいても1.5m、普通は最低でも2.0mの波があります。2.5m以上の波があると、港の内側以外は波をかぶる可能性が高く危険です。

私は専ら港の外側に向けて釣り座を構えますので、少しでも荒れた日は釣りができません。これに加え、昨年からは、直ぐに高台に避難できる場所であることが大切になりました。私が頻繁に釣りをする勝浦の興津西港の外堤は、潮通しが良く魚影がとても濃いのですが、海まで岩壁が迫り、簡単に高台に行けそうにないので、あのことを考えると、躊躇することがあります。

私のモットーは、①安全、②のんびり、③釣り人が少ない場所の三つです。中でも安全は絶対です。かつて、ある港でいつも顔を合わせていた方が、波にのまれて帰らぬ人となったことがあります。

南房総（鴨川以南）は外房よりも大型魚の魚影が濃く、JRの駅から歩いて10分の港もあり、車の運転が嫌いな方も気軽に行けます。車も高速道の延伸で釣行が楽になりました。リールや竿は千円～3千円で十分です。潮の香りを感じ、釣った魚を食べると、至福をもたらしてくれます。蛇足ですが、熊本での「がらかぶ」はカサゴ、「チン」（チヌ）は黒鯛、「くろ」はメジナとなります。黒鯛の幼魚を「チンチン」と呼ぶのは共通です。

本当は房総よりも天草で釣りをしたいのですが、それは今年夏の帰省時の楽しみにしておきます。

中山 克美（昭和53年卒）



御宿港で釣ったヒラメ



熊本弁講座 - 「え」編 -

KUMAMOTO

創刊号からシリーズ化した熊本弁講座ですが、好評につき？今回は「え」編です。どうぞ声に出して、熊本弁を懐かしんでください。

- ①「えくらう」（酔っ払う）
「こん旨か焼酎ば、おもさん飲んだけん、えくらうた」
(この旨い焼酎を、たくさん飲んだので、酔っぱらった)
- ②「えらか」（偉い）
「あん人は、えらか人ばってん、人間性がたいぎゃな良かね」
(あの人は、偉い人なのに、人間性がとても良いですね)
- ③「えんか」（親戚）
「うちん家とあそこん家は、えんかだんね」
(私の家とあそこの家は、親戚なんだよね)
- ④「えしれん」（訳の分からない）
「あん人は、えくらうと、えしれんこつばっか、いわす」
(あの人は、酔っ払うと、訳の分からないことばかり、言う)

老いて益々挑戦

孔子が晩年になって、人生を振り返った言葉の中に「志学」、「而立」「不惑」、「知命」、「耳順」、「従心」があります。人の心の成長というものは、人生において限りなく続くものであり、「もう歳だから」などということなく、新しいことを挑戦して、自分を高める努力をし続けることが大切であると説いています。孔子は、74歳まで生きたのですから（現在では、百歳に近い年齢）大変長寿であると言えます。

先日の新聞『人に歴史あり』の紙面に、百歳になっても元気で頑張っている明治44年生れの岸上米蔵さんの記事が掲載されていました。趣味がスキー・釣り、好物はトンカツやステーキだそうです。一番の誇りは、結婚して70年になる奥様と二人暮らしができること。掃除・洗濯・買物・・・朝食作りと日常生活ができることがとても幸せで、大切にしているのは家族の「和」とキッパリ。今後もやりたいことは驚くなかれ、なんと「スキー」。誰もが憧れる元気で長寿の秘訣を尋ねると、「**健康第一で、自分のペースを大事に暮らすこと。自分を愛する気持ちを大切に生きる**」ということで締めくくってありました。

人は皆、等しく年令を重ねて行きます。岸上さんの生き方を考えると、安閑として居られませんか。「**学び挑戦する**」姿勢を継続していくことが、如何に大切に痛感させられます。

昭和39年卒 中村 國正（宇土市網田町出身）

『私の釣りバカ日記』

- 恥ずかしかったとです。

『私の釣りバカ日記』

私は、今年の「釣り始め」をしたいと思い立ち、平成24年1月7日に、親友のY社長と社員A子さん(美人で元プロゴルファー)と私の3人で鯛釣りに行きました。Aさんが船の運転をしたいということで、彼女に運転を任せることにしました。ちなみに、彼女は、二級船舶免許取得の腕前です。

Y社長は、見張り役として、Aさんの横に立ちました。私は、運転席の後部座席に座ることにしました。午前10時に久里浜港を出船して、浦賀水道の水深80m付近を目指しました。(所要時間は、25ノット/44キロで約35分)その日、Aさんは、ボディコン風のスポーツウェアを着ていました。港外に出ると、うねりでクルーザーは波を乗り越える度にバウンドを繰り返し、運転席は背もたれがなく、Aさんもその度、ハンドルを持ったまま、お尻を上げるのです。見事なそのお尻は、私の目の前を掠めました。私は恥ずかしさを耐えて、ぶつからない様に足を踏ん張って我慢しました。

漁場に着くと、Aさんは酔っ払らしく、「気持ちが悪い、帰りたい」と言い出しました。Y社長と相談して、私は運転を代わり、Aさんを出発地点で降ろし、再度、漁場にもどり、釣りを始めました。2時間近く当たりがなく、金田湾水深80mに漁場を移しました。30分位して、Y社長に待望の当たりがあり、2キロ位の鯛が釣れました。その後、私にも鯛が釣れ、この日の成果は、二人で鯛6枚でした。

井上 二郎（昭36年卒）



叙勲瑞宝双光章の荣誉に浴して

この受章は、危険業務従事者に対してのものであります。小生、平成23年春の叙勲の荣誉に浴しました。これも偏に、宇土高校での質実剛健の精神に則り、諸先生方からの厳格な教訓・激励のご指導の賜物であると深く感謝している次第です。

小生は、昭和34年卒(第11回卒)で、卒業後、警視庁警察官を拝命し、平成13年まで約42年間、警察官として業務に従事しました。警察署長を目指しましたが、警部で退職しました。しかし、後輩の署長もおり、また、間もなく、2名程署長になる頼もしい後輩達が頑張っています。

叙勲に際しましては、皇居豊明殿に参内して、天皇陛下に拝詣を賜わり、お言葉を頂き感激の極みでありました。

今後は、この荣誉に恥じる事のないよう微力ではありますが、国民のひとりとして、地域社会の一員として、一層の精進を志す所と誓ったのであります。

細田 政勝 (昭和34年卒)



サンデル教授の『ハーバード白熱教室』に魅せられて!

- 「ポストン生活・波乱の幕開け」編 - Vol.2

2007年6月終わり、いよいよポストンに旅立つ日がやってきました。準備で心配していたのが、引っ越しとピザの2つ。国内の引っ越しは何回か経験があるのですが、海外に家財道具を送るのは、想像もつきませんでした。その時に役立ったのが、何と言っても“インターネット”。私よりも数年前(たった数年前です!)に行った人たちは、当時、留学地の情報が非常に少なかったようで、かなり苦労された方もいらっしゃったようです。海外への物資の搬送には、船便と航空便があることが分かり、船便は安い反面、ポストン到着まで1か月程度かかり、航空便は1週間程度で届くのですが、とにかく料金が高いのがネックでした。多くの人が2つの便を利用しており、到着する日を予測して船便を発送し、必要最低限の物を航空便で送ることとしました。

ピザに関しては、私は大学院生での留学でしたので、“F1”ピザの取得が必要でした(医者の留学と言えば、ほとんどの人が研究のための留学ですので、“J1”をとることが多いです)。アメリカ大使館での審査も無事終了し、いざポストンへ出発となりました。日本からはポストンへの直行便は当時ありませんでしたので、シカゴ経由でポストンに入りました。あらかじめネットで契約していたアパートに入居はしたものの、インターネットも電話もない生活です。車も自転車もない状態でスタートし、6月の暑い、ただっ広いポストンの街中を、汗だくになりながら、妻と娘と一緒に家財道具を集めました。段ボールをテーブルにして、慣れないアメリカの食事を頂き、家財道具が揃うのに2週間程度かかりました。ハーバード大学は、チャールズ川を挟んで本学側とメディカル・エリアと呼ばれる医療機関が集中した場所に分かれています。住まいはメディカル・エリアに近く、日本人もたくさん住んでいるブルックラインという所でした。この場所は比較的安全とされているところでしたが、“近くには何があっても入ってはダメ”と言われる場所もありました。

ポストンに到着後、すぐに手続きのために本学に向かいました。本学に行くためには『T:ティー』と呼ばれる地下鉄(一部路面電車となる)に乗って行きます。『ティー』は、路線が色で表現されて、ブルックラインからは、グリーン・ラインを乗り継いでレッド・ラインでハーバード・スクエアで降ります。ポストンの地下鉄に乗るのも初めてですので、チケットの買い方も分かりませんし、乗ったのは良いものの、車内アナウンスが全く聞き取れず、どこを走っているのかも分からない状態でした。

何とかハーバード大学の学生課に到着して、入学の手続きをしたのですが、英語が全く分かりません。しかも時差ボケで頭の回転も悪く、全然話についていきません。何回も聞き直す、そんな私に学生課の担当の方は優しく説明をしてくれます。『ああ、何と良い人たちなんだ!』と感謝しつつ話を聞いていて、どうやらパスポートのピザに不備があるというのです。『ひょっとしたら入国もできなくなってしまう?』と不安がよぎる中、再度、空港の入国審査の担当の部署に行くように言われました。説明を聞くと、どうやら入国審査の際のスタッフが、私のピザが“F1”でなくてはならないのを間違えて“F2”と登録し、家族を“F1”で登録していたのでした。“1か2”となる間違えて、空港と大学を往復する羽目となり(片道1時間以上!)手続きが終了したのは受付期限ギリギリでした。とにかく慣れない土地で、生活を始める大変さを思い知らされたと共に、数百年前、このポストンの地に降り立った先住民の偉大さに思いを馳せました。この時は、アメリカ生活への期待は全くなく、心はすべて不安で満たされていました。(次号につづく)

次回は、いよいよハーバードでの学生生活について報告します。(ハーバード留学体験記を<http://ameblo.jp/asakusa-clinic/>で公開しております。興味がある方は、ぜひご覧下さい。)

内山 伸 (平5年卒)

“絆”の大切さ

あの3.11の大地震・津波・原発事故から早一年。家族を亡くし、家も土地も、仕事まで失い、復旧・復興が仲々進まない中、被災地の人々が一生懸命頑張っている姿を見ると、逆に元氣と勇氣をもらい、絆の強さを感じます。日本中、いや世界中の人が「他人事ではない!!」と我に返ったことでしょう。

私も気持ちはすごく若い?つもりですが、いつの間にか高齢者と呼ばれる年齢になっていました。しかし、地域の会合やボランティアなどに積極的に参加し、若い人達との交流も深め、元氣に一生懸命頑張りながら若さを保っています。「元氣で自分の足で歩けるうちが華!!」ですね。

去年は震災で中止になった東京鶴城会総会も、今年はなつかしい故郷の人の和、絆の大切さを求めて、大勢の先輩・後輩の方々が参加されることでしょう。そして、盛大な会になることを心から祈っています。

私達の三九会(39年卒同期会)も「幹事を中心に一人でも多くの同級生が一堂に会し、元氣を喜び合い、明日の糧になれたらなあ・・・」と今から楽しみにしております。(写真は、2011年6月 書展鑑賞時の三九会です)

昭和39年卒 川島 悦子 (富合町出身)



私のグルメレポート! - Vol.4

- 東京で味わえるふるさとの味 -

「たまや」

塚原 直美 (昭52年卒)

『一文字ぐるぐる』を覚えていらっしゃいますか?若い世代は知らない人が多いのでは?こちらで言うところ、ネギのぬたでしょうか。でもあの形が愛嬌があって、「懐かし〜」と思いませんか?そんな『一文字ぐるぐる』を東京で食べてきました。それも恵比寿駅からすぐの場所で。店主は、学生時代を熊本で過ごされたとかで、熊本に詳しくて(熊本弁もバリバリですよ)、『一文字ぐるぐる』の他にも馬刺しや自家製の辛子レンコンもあります。

メニューは九州各地の味が勢揃い。もつ鍋も食べましたが、最後の締めには、やっぱりチャンポン麺ですよ。串焼きも種類豊富で、なかでもお勧めは「牛のさがり」。肉の旨味がぎゅっと詰まっています。美味しいですよ。

東京都渋谷区恵比寿西1丁目8-13
電話03-3477-7377



「銀座 こじま屋」

ここは、ご存知の方もたくさんいらっしゃるでしょうが、満を持して、ご紹介したいと思います。馬刺しを出すお店はけっこうありますが、「こじま屋」は、馬焼きが有名な数少ないお店なのです。「馬ば焼いたら硬くなるもん?」と思った、そこのあなたは大きな間違いです。特製塩ダレに漬けたお肉の、なんと柔らかく、甘く、美味しいこと!ヒモ肉、カルビ、タンを注文して、けっこうボリュームあったのに、さっぱりしているので食べ飽きないで、いくらでもいける感じ。ヒモ肉は、牛でいうとハラミのような食感です。タンは、牛よりも柔らかくて味に深みがある感じでした。その他、コラーゲンたっぷりのホルモン煮込み、桜うどんも人気です。今回5年ぶりに伺ったのですが、お店の方が全員熊本出身のせい、雰囲気も暖かくて、美味しい上に居心地のいいひと時でした。

東京都中央区銀座5-4-15 銀座エフロレービル2F
電話03-3569-2911

昭和40年卒の境屋です。前回の松本城（長野）に続きまして、「お城訪問国宝シリーズ」第2弾。今回は、滋賀県の彦根城に行ってきました。

彦根城は、松本城と同じく国宝に指定され、天守が現存する築城400年の歴史を誇るお城です。天守は、3階3層で松本城の6階5層に比べれば小振りな天守でしたが、屋根と窓の建築構造が階層で異なっており、変化のある外観でした。文献によれば、もとは、5階4層の大津城（京極高次が築城）を移築したものと言われており、その為、小振りな天守になったとも言われているそうです。また、彦根城は、戦争が多かった戦国時代にあつて、一度も戦争を経験しないで平和な江戸時代を迎えたそうです。

天守内に入ると、狭い階段（梯子みたい）を昇って最上階（天守3階）まで行くのですが、案内の方の話では、この階段が国内のお城で一番傾斜が大きいと説明していましたが、確か、松本城でも同じことを言われた記憶が

あり苦笑したのですが、ここの階段は梁があって、結構きつかったです。彦根城は、ゆるキャラの「ひこにゃん」で有名ですが、天守広場で「ひこにゃん」に会うことができました。実物はとっても可愛いです。

彦根城内には、「玄宮園（げんきゅうえん）」という庭園があつて、近江八景を模して造られた縮景園との事で、水前寺の庭園に似ていて、何か懐かしさを感じました。琵琶湖近辺に旅行の折は、是非、「国宝彦根城」へ行ってみてください。国宝天守訪問は、長野の松本城、滋賀の彦根城を制覇し、残りは愛知県犬山城と兵庫県姫路城の2城となりました。

境屋 由夫
(昭40年卒)



広告・寄付のお願い

同窓会維持のため、『東京鶴城会便り』発行の援助金として是非、広告・名刺、寄付をお願いし、その費用の一部にしたいと思っております。一口、5千円をお願いしたいと思っております。年会費の納入と合わせ、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

『東京鶴城会便り』の原稿を随時募集

また、『東京鶴城会便り』の原稿を随時募集していますので、同期会、家族、旅行記、趣味、お店紹介、ふるさと自慢など、『東京鶴城会便り』発行の趣旨、気持ちに会えばなんでも結構です。お礼はできないかもしれませんが、あなたの想い、感想、提案などをお送りください。写真などがあれば喜びます。応募はメール、手紙などで編集部までお願いいたします。個人情報情報は十分気をつけて管理いたしますのでご安心ください。

送金先 郵便局
口座記号番号 00180-1-708454
名 義 東京鶴城会

編集部 〒338-0811 さいたま市桜区白楸135-13 坂崎 守寿
Email: mori.reds-041205@jcom.home.ne.jp

事務局 〒300-1636 茨城県北相馬郡利根町850-59 河野 毅
Email: kohno@msd.biglobe.ne.jp

秋田犬大好き！

私は昭和50年卒の堀内(旧姓稲葉)恵です。早いもので、コチラに出て来て35年が過ぎました。好きな時代に戻れる魔法があれば...宇土高校生時代に帰るかよ~!それは楽しい学生時代でした。写真部と空手のマネージャーの二足のわらじでした。

現在は秋田犬の牝30キロ近い、親子を三頭飼ってます。皆さん、秋田犬のイメージは狂暴?大食い?でしょうか?NO!です。大人しくて人間が大好き、散歩中に声をかけられて近所のアイドルです。しかも、滅多に吠えず番犬失格です。5月中旬には出産予定です。仔犬はメチャチャ可愛かばってんが...3ヶ月目には、10キロ以上に成長!!抱っこは出来なくなり悲しかよ~。

これからの生き甲斐は、《天然記念物の秋田犬》の素晴らしい事を宣伝したいと思っております。大事に飼って下さる方や興味深ければ、是非とも御連絡を下さりませ♪秋田犬を飼ってる方もご連絡をお待ちしています。

埼玉県志木市柏町2-8-2
電話 080-4451-6340
堀内 恵 《まるめ犬舎》

堀内(旧姓 稲葉) 恵 (昭和50年卒)



東京マラソン2012を満喫しました！

平成24年2月26日は、私にとって一生の思い出となりました。人生初のフルマラソンが、日本最大規模の東京マラソンでした。東京マラソンは、ランナーにとっては憧れの大会であり、当選倍率が約10倍という難関で、今年は約36,000人のランナーが健脚を競いました。私は、あくまで健康管理の一環で、数年前から週末ランナーとして10キロ前後走ってはいましたが、当初、フルマラソンに挑戦する強い意思は、残念ながら持っていませんでした。しかしながら、昨年、無謀?にも「東京マラソン2012」に申込み、幸運にも参加する機会を得ることができました。

50歳を機に、「限界への挑戦」をこのマラソンに賭けてみました。大会直前には、最大7キロの減量に成功、週末の約40キロのランニングもクリアでき、本番に臨むことができました。大会当日は、緊張感と不安感が交錯していました。東京都心を走れることへの喜び、そして、ボランティア、沿道の声援に背中を押していただき、とても楽しく走ることができました。

坂崎 守寿 (昭55年卒)



<編集後記>

昨年3月12日に九州新幹線が全線開通し、新幹線の利用客が大幅に増えているそうです。私は、今年3月中旬に福岡出張の際、博多駅から熊本駅まで新幹線で移動しました。所要時間は、最短約30分です。本当に便利で快適でした。新幹線の全線開通により、九州の縦のライン、博多~熊本~鹿児島中央のアクセスが便利になり、ヒト・モノ・カネの流通が九州全体で活発化し、九州の経済が発展することを大いに期待しています。

本年4月1日には、熊本市が全国20番目の政令指定都市になりました。人口は約73万で、熊本県の人口の約2.5人に1人が熊本市の人口となり、一極集中が予想されます。私の故郷・宇城市は5町が合併してできた市ですが、帰省する度に、変わらぬ自然、地元民の心の豊かさにホッとしています。

56会 (昭31年卒)

代表

桜井 正男
島田 勝年
大川 勝利

内閣府認証
パソコン整備士協会
会長 西村 恭輔
(昭25年卒)

〒101-0034
東京都千代田区神田東紺屋町28
那智ビル6階
TEL.03-5297-2558 FAX.03-5297-7027
http://www.pc-seibishit.org

38会代表

田中 幸資
大久保 千鶴
(昭38年卒)

車の買い取り・販売のご相談は
日東金属株式会社・車輛部

代表取締役 永井 秀夫
(昭40年卒)

〒158-0083 世田谷区奥沢7-11-5
TEL.03-3704-0161 Fax 03-3704-0170

昭40年卒 境屋 由夫
(宇土市本町5丁目出身)

実家は蒲鉾製造販売の老舗です。宇土に御帰郷の切は是非、「境屋かまぼこ店」にお立ち寄りください。

住所：宇土市旭町421-4
TEL：0964-22-0162

ウイルス対策・除菌・抗菌・消臭
『マタタコ』
株式会社エースネット

萩原 秀文
(昭42年卒)

PAPER AND PRINTING
グローイン

代表 森内 忠美
(昭50年卒)

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-62 2F
TEL & FAX 03(3259) 1116
E-mail: growintn@aol.com

上尾市社会福祉協議会

副会長

植田 幸一
(昭24年卒)

〒362-8501
埼玉県上尾市本町3-1-1
Tel 048-775-4539(直通)